

## 作期別イグサの生育相について

高尾 武人・成 清 潔

(福岡県立農業試験場・筑後分場)

TAKAO, T. and NARIKIYO, K.

Studies on the Growth Pattern of rush plant in different cropping seasons.

福岡県におけるイグサの栽培面積は年によってかなり増減はあるが、1,800ha（昭和51年度は1,570ha）程度である。従来イグサは7月上中旬に収穫されるいわゆる普通期栽培が主体であったが、最近では6月上～下旬に収穫される早、中期栽培が増加して全栽培面積の約45%を占めるようになった。

しかし6月に収穫されるイグサは栽培法の検討が十分ではないために、普通期栽培イグサに比べて収量、品質

が劣っている。そこで早期栽培法の基礎資料を得るため、昭和48年から51年まで6月～7月の間に4段階の作期を設定し、それぞれの作期について出芽時期別の伸長、先枯れの進行等を調査し、平均的経過を知り得たのでその概要を報告する。

## 試験方法

筑後分場内において「あさなぎ」を供試し、試験区の構成は第1表のとおりである。

第1表 試験区別および出芽時期別新芽の伸長と先枯長調査開始期

区番号	試験区別	調査開始期 (月日)	備 考
1	5月31日収穫 無先刈	2. 5	◎先刈時期は収穫の60日前に行なった。 ◎調査開始期欄において昭和51年はうるう年であったため2月の調査期は1日遅らせた。 ◎植付期昭和48年11月20日 " 49年11月20日 " 50年11月21日 " 51年11月19日 ◎株間17cm×15cm ◎1区面積, 区制13m <sup>2</sup> , 2区制
2	6月15日 " 無先刈	3. 17	
3	6月15日 " 35cm先刈	4. 1	
4	6月30日 " 無先刈	4. 1	
5	6月30日 " 45cm先刈	4. 16	
6	7月15日 " 無先刈	2. 5	
7	7月15日 " 45cm先刈	5. 1	

施肥量はa当たり N 4.5kg, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 1.3kg, K<sub>2</sub>O 4.1kg とし、Nの施肥法は基肥と追肥4回とし、追肥時期は各作期の収穫前75日, 60日, 45日, 35日としたが、7月15日の作期は、収穫前70日から10日おきに4回施肥した。

調査の方法は、出芽時期別新芽の伸長および先枯長は、第1表の調査開始好期から5日ごとに、地上1cm程度に出芽した新芽5茎について、収穫期まで追跡調査した。なお、調査茎になるべく触れないため各調査茎に簡易ものさしを固定して測定した。

収穫期の茎長は1株中の最長茎長とし、1株茎数は、1株中の長イ(105cm以上)総茎数(60cm以上)を数えた。

また収量は80株を刈取り、泥炭乾燥後、長さ別に選別秤量しa当たり採算した。品質は長イについて肉眼観察によった。

## 試験結果および考察

収穫物(60cm以上)に伸長する新芽の出芽始期は、5月31日の作期は3月9日、7月15日の作期は3月22日で、作期が早いほど収穫物に達する時期は早くなったがその差は少なかった。また年次間変動は、7月15日収穫の作期は約15日であったが、5月31日収穫の作期は30日以上

の差であった。このことは、作期が早いほど出芽始期が冬季から春季にかけての気象条件などに左右されやすいためと思われる。

終期は、いずれの作期も収穫18～23日前までに出芽した新芽で、作期、年次間差は少なかったが、7月15日の作期は、わずかに早く22日～23日前までに出芽したものであった。このことは高温のため伸長速度が鈍ったものと思われる。

長イに伸長する新芽の出芽始期は、作期が早いほど早期に長イに達するが、5月31日の作期は収穫前60日、6月15日の作期は56日、6月30日の作期は66日、7月15日の作期は75日前で、作期が早いほど収穫期からさかのぼって早くなった。

年次間変動は作期が早いほど大きく、5月31日の作期は長イに達しなかった年も見られ、6月15日、6月30日の作期は30日以上之差であったが、7月15日の作期は7～8日で少なかった。

終期は、いずれの作期も収穫の約35日前までに出芽した新芽で、年次間差は少なかった。したがって長イの出芽期間は年次による差はあるが、5月31日の作期は約13

第 2 表 収穫物, 長イになる新芽の出芽期 (4 ヵ年平均)

区番号	収穫物になる新芽の出芽期 (月日)		長イになる新芽の出芽期 (月日)		最長茎の出芽期 (月日)	最 長 茎 長 (cm)
	始 期	終 期	始 期	終 期		
1	3. 9	5. 16	(3. 30)	(4. 25)	4. 21	106
2	—	5. 26	4. 19	5. 12	5. 5	119
3	—	5. 26	4. 18	5. 10	5. 2	118
4	—	6. 9	4. 24	5. 28	5. 12	125
5	—	6. 10	4. 23	5. 26	5. 12	128
6	3. 22	6. 22	4. 29	6. 9	5. 24	131
7	—	6. 24	5. 2	6. 10	5. 27	129

注) ( )印内は2 ヵ年平均

日, 6月15日の作期は23日, 6月30日の作期は34日, 7月15日の作期は40日, 作期が早いほど期間が短かった。

最長茎の出芽時期は, 5月31日, 6月15日の作期は収穫の約40日前で, 6月30日, 7月15日の作期は約50日前であった。また, 作期が早いほど年次間差は大きい傾向が認められた。

最長茎の長さは, 作期が早いほど短かったが, 6月30日と7月15日の作期間差は少なかった。

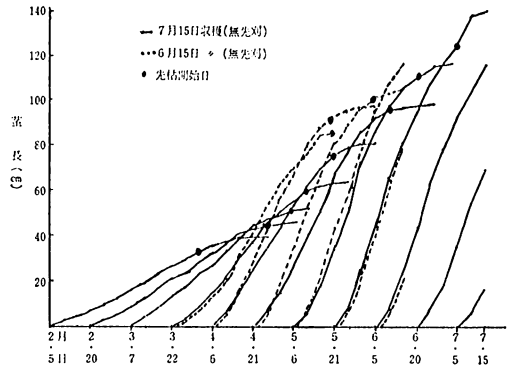
出芽時期別の伸長および先枯始期は第1図のとおりで, 出芽時期による差はあるが, いずれの作期も出芽後5~10日は緩慢で, その後急速に伸長し, 再び緩やかになるS字型の伸長曲線をたどった。

伸長に要する日数は, 低温時の2月に出土した新芽は70日程度で, その後漸次短くなり5月に出土の新芽は約50日であった。

先枯れは, 作期間差は少なく, 2月に出土した新芽は出芽後60~65日から始まり, その後徐々に早くなり, 5月出芽の新芽は45日ごろから始まった。

全茎枯死に至る日数は, 7月15日の作期において135日程度であった。また先刈りがイグサの伸長および先枯れに及ぼす影響は明らかでなかった。

収穫期におけるイグサの生育, 収量は第3表のとおりで, 作期が早いほど茎長が短く, 1株茎数が少なかった。したがって収量は劣ったが, 6月30日と7月15日収穫の作期の差は少なかった。



第 1 図 出芽時期別, 伸長状況

また先刈りが収量, 品質におよぼす効果については判然としなかった。

総 括

以上の結果から作期が早いほど, 収穫物および長イの出芽期間が短く, また伸長が劣るうえ, 冬季から春季の気象に左右されやすいため, 低収で不安定であるが, 6月30日以降に収穫の作期は, 年次間変動が少なく作柄は安定した。

このようなことから6月15日以前に収穫の作期は, なるべく避けることが望ましいが, 労力の配分および後作水稲など, 農業経営面からは, 作期の早いことが望まれるので, 早い作期に応じた植付時期および肥培管理と, さらに早期伸長多けつ型品種の育成が必要である。

第 3 表 生育 (刈取期), 収量, 品質 (4 ヵ年平均)

区番号	茎 長 (cm)	1 株 茎 数 (本)		乾 茎 重 (kg/a)		標 準 比 率 (%)		品 質 (色沢)
		長 イ	総茎数	長イ重	総 重	長イ重	総 重	
1	107	13.5	65.7	20.4	71.4	30	58	中
2	118	23.5	81.1	37.5	95.3	55	78	中
3	119	24.9	82.4	39.1	98.3	58	80	中
4	129	38.2	91.5	59.5	114.1	88	93	やや良
5	130	36.9	86.2	57.6	109.2	85	89	やや良
6	132	45.4	101.5	68.0	122.8	100	100	中
7	133	43.5	90.9	65.7	113.3	97	92	中